

平成 年 月 日

平成 17 年度 教育研究業績書

氏名 寺崎保広

最終学歴	東北大学大学院文学研究科（博士課程後期）単位取得退学
取得学位	文学修士
所属学会	木簡学会、日本史研究会、大阪歴史学会、東北史学会、日本歴史学会ほか
現在の専門分野	日本古代史
研究課題	古代都城制、木簡、奈良時代史、文献資料の研究

【研究上の特記事項】

木簡学会委員

奈良文化財研究所調査員

【教育上の特記事項】

関西大学大学院非常勤講師

【社会的活動】

【学内活動】（学内職歴を含む）

通信教育部委員

剣道部顧問

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 『木簡研究』第27号 2 3 4 5	共編	2005 11	木簡学会	同誌の編集長をつとめた
(学術論文) 飛鳥池遺跡の性格についての覚書 古代の木簡 木簡はどういう所から出土するか? 4 5	単著 単著 単著	2005 12 2006 3 2006 3	納谷守幸遺稿集刊行会編『飛鳥文化財論攷』 岩波書店『列島の古代史第6巻』 春風社『古代文字史料の中心性と周縁性』	飛鳥池遺跡の性格をめぐる議論について、批判をうけた点について反論を加え、再論した。 近年の木簡研究をめぐる動向を中心、諸問題について論じた。 木簡の史料的特性、という観点に留意し、出土状況の重要性を指摘した。
(学会発表) 新発見の宮都関連遺跡 古代の勤務評定と木簡 奈良時代の役人と木簡 4 5	単 単 単	2005 12 2005 6 2005 11	古代史シンポジウム「列島の古代史一ひと・もの・こと」 奈良歴史地理の会 大学公開フェスタ	最近における都城関係遺跡の新知見を概観し、シンポジウムのパネラーとして討論に参加した。 勤務評定の木簡についての最新のデータを作成し、それをもとに研究成果を述べた。 奈良時代の役人の制度を概観し、その実態を木簡などから考察した。
(その他) 平城宮案内 長屋王邸宅跡 高市皇子 4 5	単著 単著 単著	2005 5 2005 5 2005 11	「イマジン21」第11号 ケイアイメディア『第3次埋蔵文化財白書』 平凡社『別冊太	平城京の範囲を現況から説明し、歴史的意味を考えた。 長屋王邸宅の発掘調査と保存の動きを解説した。 高市皇子の生涯を簡単に述べた。